

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601811
法人名	医療法人八十八会 ツジ胃腸科医院
事業所名	グループホーム こすもす (ユニット名 1F・2F)
所在地	福岡県久留米市上津町字下千束1217番地1
自己評価作成日	平成27年 8月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成27年 9月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、医療法人を母体とし他に介護老人施設・ケアハウス・グループホーム等があり、夏祭り・餅つき会・毎月のお茶会等への行事に参加して入居者同士の交流も深めています。緑豊かで広々とした敷地内は自然の風が吹き抜けて、気分も高揚し季節を肌で感じ取ることが出来ます。ホーム周辺は、地域住民の散歩コースとなっていて朝・夕と挨拶を交わしています。近くには、公園があり慈母観音像が目の前に見え、良い環境にあります。広い畑に実をつけた野菜は、食卓に登場し元気の源となっています。8月は地域の夏祭り、法人の夏祭りがあり踊りの練習に励んでいるところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にあり、広い敷地を利用し天気の良い日の散歩や屋外でのレクリエーション等を行っている。隣接した畑には、利用者と一緒に栽培した草花や野菜があり四季の変化を肌で感じることができる。自治会に加入し、地域の行事や奉仕活動へ参加したり、ボランティアによるの歌や踊りの訪問、地域の方の訪問等もあつたりして地域との交流を大切にしている。ホーム長、管理者、職員は、利用者に尊厳をもって接し、常に利用者の立場になり、一人ひとりの自立支援に向けて取り組んでいる。利用開始当初は自宅へ帰ろうとされる利用者への対応について、地域の方や家族の協力の下、職員一丸となって落ち着いた生活につなげた取り組み事例がある。利用者のやすらかな表情と職員の明るい笑顔でアットホームな事業所となっている。地域高齢者の在宅生活を支える拠点として、期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、申し送り時に毎日唱和し、自己意識を高め毎日の生活の中で実践している。理念である、1人1人の力に職員も加わり共有し実践につなげている。	開設当初の理念を昨年見直し、利用者本位・地域との絆を大切に”ゆっくり・楽しく・いっしょに“をモットーに日々のケアに関わっている。また、くらしのめあて三ヶ条があり自立・安心・安全に向けての支援ができています。職員の目につく場所に理念と三ヶ条を貼り、意識づけが出来ています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	8月は、地域の夏祭りに参加し知人・友人との交流を楽しみにされて、温かく迎えてもらっている。季節行事には、声かけしてもらい交流している。	自治会に加入している。利用者と一緒に回覧板を回したり、2ヶ月に1回施設の周りの清掃活動を行っている。地域の道路愛護、河川清掃などは職員のみが参加している。ボランティアや歌や踊りの訪問の方を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談もあり、介護保険の仕組み等説明を行い対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・有識者等、地域の方の参加をいただき入居者の日々の様子、ホームの取り組み等、報告し意見・提案を聞いてサービスの向上に活かしている。	利用者・家族代表、地域の方、市役所、包括支援センター職員等の参加で、利用者の生活状況・行事・ボランティア・研修・ヒヤリハット等を報告している。地域の情報を聞いたり、防犯用に外灯の要望があり数ヶ所に設置したことがある。カーブミラーの設置やホーム近くに公園を造る計画等が提案され地域の取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度に関して課題があれば相談し、助言を頂いて協力関係を築くように取り組んでいる。又、介護相談員の訪問を受けている。	運営推進会議で事業所の実情を理解していただくと共に、相談や助言を受けている。介護保険改定の相談や入居相談など市役所の窓口に出向き行っている。生活保護費の活用について相談を行い職員に来てもらいアドバイスを受けたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市主催の研修会に管理者が参加後、ホーム内でも研修、参加できない人は回覧で周知を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員が虐待の芽チェックリストを使って自己チェックを行っている。管理者は集計結果をミーティング時に報告し改善に向けて取り組んでいる。言葉づかい等不適切な場面など管理者が気付いた際は注意、指導をしている。玄関は20時から7時までは防犯上の理由により施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修後、勉強会を行っている。日頃より、言葉のかけ方、対応の仕方等、虐待につながらないよう意識付けを行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修後、伝達研修を行い制度について理解を深め、学ぶ機会を持っていて、又、毎月のミーティングでも勉強会を行っている。日常生活自立支援事業を利用されている人もいます。	現在、成年後見制度の活用を検討されている利用者もあり、毎月の勉強会で、制度について学んでいる。職員は制度の概要や、相談窓口について理解できている。パンフレットの設置やポスターの掲示で利用者・家族に情報提供を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までに時間をかけて説明を行い、理解し納得をして頂いている。疑問点についても十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2カ月に1回の「便り」で日頃の様子を報告し又、面会時には声かけを行い意見、苦情等言い易い状況に努めている。苦情窓口として、ホーム内、公的窓口を重要事項説明書に記載し説明している。市の相談員を受け入れている。	玄関先には公的苦情窓口のポスターが貼られ、ご意見箱の設置もある。家族の訪問時には利用者の生活状況を説明し、意見や要望を積極的に聞くようにしている。運営に関する意見等は十分に聞くことができている状況までに至っていない。	利用者、家族からは意見等を言い出し難いという理解のもと、事業所側から意見等を積極的に聞く機会のあり方について、今一度、検討する機会を持つことを期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の運営会議時に職員の意見、提案を受けてもらい業務改善向上に努め、意見の反映が出来るようにしている。	会議では職員が自由に意見を言える雰囲気がある。利用者の介護の方法や行事など提案し、職員の意見をくみ取って対応してもらっている。ホーム長、管理者に何でも相談できる関係性ができている。職員本人の希望によりユニット間での異動があったが、ホーム内での異動で利用者との馴染みの関係は保たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	初任者研修を受ける人は、優遇制度がある。産休・育休後、職場復帰する人もいます。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたり特に制限はない。職員はそれぞれの能力を発揮し得意分野を生かし勤務している。又、社会参加や休みが必要な時は勤務の調整を行っている。	採用にあたっては、介護経験の有無を問わず身だしなみや笑顔など介護職員としての資質のある方を採用している。資格取得の為の勤務調整や費用面での支援体制ができている。昼休みも交代で取れており、休みの希望や勤務交代もでき、働きやすい職場環境になっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権を尊重する意識を念頭に”明るく思いやりの心”を持ち接している。法人の研修に参加し話し合っている。	DVDによる研修があり意見交換をしている。管理者は、日々の業務の中で尊厳をもって利用者に接するよう指導している。職員の言動で気になる事があれば、ミーティングの中で話したり申し送りノートに記入したりして、本人の自覚を促している。また、職員同士で注意し合う体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加して、ミーティング時に報告するようにしている。新採用職員は、定期的に自己評価をしてもらい、ケアの実際と力量の把握に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH部会で交流する機会があり、お互いに情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。法人内のGHでは、入居者同士も行ききし、イベントでも交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、ご本人・ご家族と会って情報収集に努め、ニーズの把握を行っている。入居前に職員全員が統一したケアができるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、キーパーソンやご家族から不安や要望について、情報収集を行いニーズの把握に努めケアプランに反映できるように関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の現在の様子、思い等必要としている支援を提供している。必要に応じて本人に合ったサービスが提供できるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の力を発揮して頂けることを第一に、場面場面で役割を持って頂いている。人生の大先輩である皆様に敬意、喜びや楽しみを一緒に共感できるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や電話でその都度、生活の様子を報告している。又、ご家族の協力を頂いて外出の機会を作り、絆を大切にしながら関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人・ご家族の面会もあり訪問時は居心地良く過ごしていただける様、配慮して馴染の関係が続くように支援している。美容室の送迎や買い物にも同行している。	自宅へ行かれたり、うなぎ屋さんに行かれたりするので支援している。琴のお師匠が稽古に行かれるので着物を着る手伝いや、お弟子さんの面会、家族への絵手紙や年賀状を書く手伝い、電話の取り次ぎなど馴染みの関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の趣味・好きな事の理解に努め出来る環境作りを行っている。「できる事・やりたい事」を職員と一緒に行う事で孤立した状況を作らない様にしている。又、職員が会話の援助を行ったり座る位置に配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は会いに行き、ご本人・ご家族と情報を交換している。又、電話で様子を伺い相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、入居者一人ひとりの思いをくみとっている。職員間でも情報を共有し、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人の状態観察と家族の意見を取り入れ、ケアプランに活かしている。	日常生活の中で表情や、利用者の小さな一言にも耳を傾け聞き逃さないように心がけ、希望や意向の把握に努めている。言葉にしづらい利用者は時間をかけて向き合い、思いの把握に職員一丸となって取り組み、家族から情報を得て利用者本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から情報収集を行い、これまでの生活習慣に近い環境で安心して暮らして頂けるよう努めている。居室には、これまで大切にしてきた家具や品物を持参していただいている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にかンファレンスを行い、モニタリングを行っている。毎日の経過記録により、入居者の状況把握に努めケアプランに活かしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を聞いて、職員で検討し状況に合った介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、状況変化のある時は随時見直しを行っている。	介護計画書は計画担当職員が作成している。利用者、家族の思いを尊重し、主治医の意見も聞きながら、部屋担当職員を中心に、全員で話し合い、利用者が望む生活が送れる計画となっている。状況変化の折には、その都度関係者と話し合い、随時状況に即した計画への変更がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の現状を把握する為に、SOAPにて記録を行っている。ケアの実践、気づきや変化は口答や記録にて情報の共有を行いケアプランに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望があれば医師・歯科医等の受診、往診を行える体制に取り組んでいる。個々に合った状況に応じて、サービスを取り入れ個別性のある支援に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加しており、地域の行事やボランティア活動(クリーンパートナー)などを行う中で、本人が力を発揮出来るように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人やご家族が希望するかかりつけ医を聞いている。受診の時は職員も同行し、必要な方は訪問看護や歯科・心療内科医の往診を依頼している。	利用者全員が希望するかかりつけ医に受診できている。外部のかかりつけ医受診で、家族が同行できない場合は、職員が対応している。適切な医療が受けられるよう、主治医との情報共有は密に行い、法人医師も週1回は訪問し、利用者の様子を観察している。法人全体の医療連携体制があり、異常時の早期発見ができています。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内で医療連携体制が整っており、担当看護師に毎日の健康状態を報告し、急変時の対応が敏速に行くように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者との連絡を随時行い、状態や本人の様子を把握し情報を共有している。入院による不安やダメージが最小限となる様に、定期訪問し安心して頂けるように支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する説明を行い、同意書にてご本人・ご家族の希望を最大限尊重している。しかし、GHでの限界も理解して頂きその範囲で希望に沿い安心して過ごして頂ける様、チームで最善を尽くしている。	これまでに看取りの経験があり、事業所での課題も把握している。住み慣れた事業所で自然な終末期を望まれる場合は、他の利用者への配慮もしながら、今の事業所の環境・体制で対応しうる最大の支援方法の説明を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時の対応、手当の訓練や勉強会を行っている。急変や事故発生時に備えAEDの設置をしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜を想定した避難訓練を行い、1回は消防署の立ち会いを依頼し、消火器の使い方、水害や地震時の避難方法についても情報収集を行い、地域の自治会への協力もお願いしている。又、日頃より避難経路・場所についても、指導し周知している。	スプリンクラーの設備がある。地域住民の参加も得て、昼想定で年2回の避難訓練を実施している。ミーティングで訓練時の反省会を行っている。また、火災のみでなく水害等、全ての災害対策に関してマニュアルも準備されている。緊急時必要な備蓄も、すぐ運び出される場所に準備され、定期的に入れ替えを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活歴を把握し、プライドに配慮した言葉かけを行っている。職員は不適切な言葉かけや対応をしていないか注意し合い、話し合っている。特に入浴・排泄等では羞恥心に配慮した対応をしている。	利用者の呼称はさん付で呼ぶが、職員間で利用者の名前を出すと、「悪口を言っている」と、誤解される場合があり、申し送りは部屋番号を使用する配慮がある。居室に入る時は、用件を説明し、許可を得て入室し、掃除の折は物の配置を変えないように心掛けている。個人ファイル等の情報は外部から見えない場所に保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や想いを聞き、自分で選択できるように支援している。何気ない会話も大切に、自分で決められるように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活スタイル・ペースを最大限に尊重、優先するよう心掛けている。しかし、忙しさを言い訳に職員主体になってしまう場面が時にみられる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは、できるだけ本人に選んでもらっている。希望により、化粧品を購入する支援をしている。又、行きつけの美容室に行かれることもある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや後片付け等、役割を持って頂き出来る事をして頂いている。食事は同じテーブルで音楽や会話を楽しみながら摂っている。ホームの畑で作った野菜を収穫したり、下ごしらえを一緒にしている。	献立は法人の栄養士が作成し、材料は地域業者が毎日新鮮な食材を配達している。職員が調理し、メニューの変更や食事形態など一人ひとりにあった食事を提供している。盛り付けは、様々な形、絵柄の上品な陶器が使用され、目でも楽しめ、家庭的な雰囲気がある。毎月給食委員会で利用者の摂取状態等の話し合いを行い、健康維持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の指導により、個人に合わせた食事提供を行っている。毎日、バイタルチェック表に食事量を記入し、水分量も十分に確保し居室にも配茶をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄を行い口腔内の清潔保持に努めている。個人に合わせたスポンジやガーゼも使用している。又、歯科往診も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の尿意・便意に合わせる事はもとより、感覚が薄れている方に関しては、排泄チェック表を使い、本人に合った排泄パターンを把握し誘導を行っている。	入居時はリハビリパンツ内に失敗が多かった方や、夜間はポータブルトイレを使用していた方が、排泄パターンやサインを把握したトイレ誘導により、下着のみで過ごせるようになり、夜間もトイレで排泄できるまで改善した事例がある。加齢に伴い、再度リハビリパンツの利用をしている方も、今も自ら積極的にトイレへ行くことができています。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、水分補給にも気がかけている。運動・散歩を取り入れ、体を動かし腹部のマッサージを行っている。個別にヨーグルト・ヤクルトを購入している人もいます。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望や健康状態に合わせ、入浴を行っている。体調不良等で入浴できない場合でも、清拭・着替えを行い清潔保持に努めている。又、ゆず湯や菖蒲湯など季節感を味わってもらっている。	腰かけが付いたゆっくり足をのばせる広さの浴槽で職員と会話をしながら、入浴を楽しんでいる。利用者の希望があればいつでも入浴できる体制があり、午後の一息ついた時間帯で好きな時に入浴している。入浴を拒まれる場合は、時間をずらして声掛けしたり、気の合う職員が声を掛けたりして、全員入浴が出来ている。時には入浴剤で温泉気分を楽しむこともある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣や体調を見極め、早目の声かけを行い休んで頂いている。寝具の調節や室温を考慮し支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、いつでも職員が見られる様にしている。服薬時には本人に手渡し服用の確認を行っている。体調に変化があれば速やかに看護師、医師へ報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・裁縫・畑仕事など一人ひとりに合った出来る事をして頂き、楽しんでもらっている。散歩やドライブの機会を設け、気分転換の支援をしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの花見やドライブに出かけると共に、近所への散歩や買い物に出かけている。食事に行く事もあり又、家族にも協力をお願いし、外出の機会を作ってもらっている。	行事で外出したり、利用者の希望で散歩、買い物、外食に職員が同行したりしている。玄関先の屋根が付いた場所に椅子を並べ、周囲の緑の木々を眺めたり、耳を澄まして鳥や虫の鳴き声、近くの園舎から聞こえる子供の声を楽しんだりして、気分転換や五感の刺激の機会となっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でお金を持って頂いている方もいる。買い物の際も自分で支払いができるように支援している。自己管理が難しい方は、ホームでお預かりし、個別の台帳を作成し家族へ定期的に報告している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に電話をしてもらっている。又、手紙・絵手紙・年賀状を出したりと支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者で作成した作品や写真を飾っている。又、季節の花を生け四季を楽しんで頂いている。台所からは調理の音や匂いがあり、生活感が漂っている。	ユニット入口には、利用者と職員の共同作品や利用者による生花が飾られ季節感がある。広いホールには、畳敷とソファの和洋の寛ぎの場があり、利用者は思い思いにゆったり過ごしている。家族から自宅で飾られていた昔を懐かしむ置物等が寄贈され、家庭的な雰囲気づくりができています。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・畳敷きの場・食堂が一体化しており一人ひとり思い思いに過ごせる様に支援をしている。入居者同士、居室に招き入れ談笑されている事もある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されていた家具や仏具を持ち込まれ、自宅と同じ空間づくりを支援し、安心して暮らせるようにしている。以前、教室をされていた時の道具(お琴・三味線)などを持ち込まれ、自宅と同じ空間作りをし、居心地良く過ごして頂いている。	思い出が詰まったアルバムや、若い頃の記念写真、楽器、使い慣れた椅子等が持ち込まれ、馴染みの物が安心感につながっている。居室の飾りつけは利用者と部屋担当職員が相談しながら、利用者の意思を尊重した飾りつけとなっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLの状態を把握し、環境整備を行い自立した生活が送れるように工夫している。		